



文部科学省 日本語教師養成・研修推進拠点整備事業(近畿ブロック)
2025年度 第2回・第3回公開研修会

登録日本語教員時代に求められる2つの視点
—「連携」と「史的俯瞰」—

ごあいさつ

関西圏の大学・日本語学校・行政機関等、27機関が加盟する「[文部科学省日本語教師養成・研修推進拠点整備事業近畿ブロック](#)」(拠点校:神戸大学)では、2024年度より、「登録日本語教員」時代を見据えた公開研修会を継続的に実施しています。

2025年度の第2回・第3回公開研修会では、九州・沖縄地区で日本語教育関連機関のネットワークを精力的に進めておられる橋本直幸先生と、日本語教育政策や外国人受け入れの問題に精通されておられる田尻英三先生を講師としてお招きします。両先生のご講義により、これからの日本語教育関係者に求められる「連携」と「史的俯瞰」の視点を共に学びあいたいと思います。

学期初めのご多用中の時期とは存じますが、日本語教師・教師教育者の皆さま、日本語教師を目指しておられる皆さま、小中高の先生がた、行政の皆さま、地域の皆さまはじめ、この問題に関心をお持ちの多くの方々のご参加をお待ちしております。

記

日時 2025年5月17日(土) 13:00~15:30

会場 大阪 ヒルトンプラザウェストオフィスタワー8階会議室

〒530-0001 大阪市北区梅田2丁目2番2号(TEL:06-6341-3334)

参加費 無料(要事前申し込み、先着順) <https://forms.gle/PrE3PATsDhWtBaoi6>

問合せ先 拠点事業責任者 石川慎一郎(神戸大) iskwshin@gmail.com

プログラム

13:00-13:05

開会あいさつ・趣旨説明

13:05-14:05 第2回公開研修会

司会 建石始氏(神戸女学院大学)

橋本直幸先生(福岡女子大学教授)「地域の日本語教育関連機関の連携をどう進めるか?~九州・
沖縄の取り組みを通して~」

14:15-15:15 第3回公開研修会

司会 浜田麻里氏(京都教育大学)

田尻英三先生(龍谷大学名誉教授)「文部科学省の日本語教育施策と日本語教師養成」

講師紹介と講演の概要

第2回公開研修

講師: 橋本 直幸(はしもと なおゆき)氏



福岡女子大学国際文理学部教授。岡山大学文学部卒業後、横浜国立大学大学院教育学研究科修士課程修了、東京都立大学大学院人文科学研究科博士課程単位取得後退学。首都大学東京助教、福岡女子大学専任講師、准教授を経て現職。日本語学校、大学等で留学生を対象とした日本語教育に携わり、現在は勤務校で日本語教員養成を担当。2023年から文部科学省「日本語教師養成・研修推進拠点整備事業(九州・沖縄ブロック)」を受託し、「日本語教師養成コンソーシアム九州・沖縄」を立ち上げる。専門は日本語学・日本語教育学(コーパスを利用した言語研究)。

概要

九州・沖縄ブロックでは、福岡女子大学を拠点として「日本語教師養成コンソーシアム九州・沖縄」を立ち上げました。現在、26の機関・団体が加盟し、日本語教師養成に関する連携と情報共有を進めています。活動は4つの部会に分かれ、それぞれが専門的な視点から取り組みを行っています。九州・沖縄は地理的に広範で、かつ、小規模な養成課程も多いため、連携の難しさが課題となっています。そうした状況の中で、地域全体をつなぐ新たなネットワークづくりに挑戦しています。

第3回公開研修会

講師: 田尻 英三(たじり えいぞう)氏



九州大学文学研究科国語国文学専攻博士課程中退。鹿児島大学教育学部(この時期に国際交流基金からインドネシア共和国パジャジャラン大学へ派遣された)、福岡大学人文学部、龍谷大学経済学部を経て、龍谷大学名誉教授。日本語教育の業績で、文化庁長官表彰を受けた。専門は、日本語教育学、日本語学、日本語・インドネシア語対照研究。編著は、『定住外国人と日本語教育(増補版)』、『日本語教育政策ウォッチ 2008—定住化する外国人施策をめぐって』、『言語政策を問う!』、『外国人労働者受け入れと日本語教育』(いずれもひつじ書房)。

概要

日本政府の日本語教育施策はどのように決まってきたのかを概説し、その流れの中で日本語教師の資格やそれを支える日本社会での日本語教師の役割について、私の考えを述べる。それを理解する前提となる事柄について、田尻編『外国人受け入れへの日本語教育の新しい取り組み』(ひつじ書房)やひつじ書房のウェブマガジン「未草」の記事を読んでおいていただきたい。